

2024 年度 ボランティア活動 事業報告書

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

ライフ ホスピタリティ マネジメント サービス
Life hospitality management service

1. 活動概要

今年度も ボランティア要員が集まらない事による身の丈に合ったイベントを実施する為 助成金を受給せず活動を行った 毎月開催のイベント取りやめ重複開催を行わず 2 カ月連続で1 カ月イベント活動を休止するスタイルに変更 固定の活動要員のみでイベントを開催するスタイルに変更した 当団体が一番大切にしている 意見交流会をメインとして行った 更に今まで (LGBTQ+) 性的少数者方々との意見交流会だけではなく 性別に違和感があるトランスジェンダー対象意見交流会を2024年1月から開始した セミナーについては暫定開催である性別違和を持っている当事者の実体験を紹介したセミナーを夏期休暇期間に実施 性的少数者の個別相談会の Zoom 開催を目指した QOL 向上イベント昨年度に引き続き 自撮りテクニック講座を実施 性別違和を持っている当事者の自己肯定感向上のキッカケのイベントを行った

2. 活動成果

昨年度に引き続き 助成金を受給せず活動を行った。助成金を受給すると助成金額の9割以上のボランティア活動を要し コロナ前に比べボランティア募集を募っても集まらない事態に 毎月開催のイベント取りやめ重複開催を行わず 2 カ月連続で1 カ月イベント活動を休止し 固定の活動要員のみでイベントを開催する形式にした 当団体のボランティア啓発活動根幹である 意見交流会をメインとして行った 開催場所はクレオ大阪中央館と梅田総合生涯学習センター会場は性的少数者 (LGBTQ+) 方々との意見交流会のイベントを行った 梅田会場は立地条件に助けられ広報活動も噛み合い参加者平均が10人超えに達した しかし クレオ大阪中央館は 1 月開催時 10 人を割り 7 月開催も 7 人の参加者であった 交通アクセスは良好の立地であるが減少に至っている原因追及を必要だ 更に 今までの 性的少数者 (LGBTQ+) 方々との意見交流会だけではなく 性別に違和感があるトランスジェンダー対象意見交流会を昨年度の 1 月から住吉区民センターで開催 昨今 性的少数者であるトランスジェンダーへのバッシングと尋常もないヘイト状態である為である コロナ感染拡大中は SNS 上で交流や意見交流や意見交換が盛んになった恩恵で 性的少数者であるトランスジェンダーの存在が認知されたと同時に 勝手な妄想や事実と異なり間違い湾曲した認識 海外の性犯罪者を SNS 上で知り 日本でも性犯罪者が増えるのではないかと不安や恐怖の増大 真剣に性別違和感があり悩まれている当事者の居場所が無くなった理由で リアル会場でトランスジェンダー対象向け意見交流会開催した 2024 年前半の開始時は来場者が多数参加されたが 2024 年後半 8 月から 2024 年 2 月開催において住吉区民センターという立地条件なのか 通常の見学交流会の参加人数となった 性別違和を持っている当事者セミナーについて 今年度も 学生をターゲットにし夏期休暇の研究課題論文など活用して頂く為 8 月に開催した 参加人数が 10 名で 学生 2 名 教職員 4 名 それ以外 4 名の参加者で学校教育関係者の方の参加者が多く 参加希望のターゲットがお越しになられ広報の成

果が現れた 性的少数者個別相談会は まずオンラインで開催を予定していたが Zoom の仕様が変わり 時間ごとに区分分けが出来ない状態になり頓挫 個別相談会は 1 対 1 なので小スペースの開催場所の手配が難航してしまい開催出来ない状態が続いている プライバシー確保が最優先なので何か違う形での試みが出来ないかと模索中である QOL 向上イベントについてはスマートフォン使用による自撮りテクニック講座を実施 6 名枠の参加募集を行ったが参加者は 1 名 性別違和を持っている当事者は自己肯定感が低い人が多く 自分の姿が嫌悪している状態の中自撮りをするのが ためらっているのだと想定される その方へ自分のイケている角度の写真を見て 自分の良い部分を発見できるキッカケに そして自信を持ち 自己肯定感の向上に繋がる事になるように今後の QOL 向上イベントに繋げたい その他 全くメイクをしたことが無い方対象の初心者向けメイクレッスンも可能であれば開催の方向へ繋げたい その他 過去に開催したイベントのリバイバルも望みたい

3. 活動実施事項

イベント名	実施場所	実施日	参加人数
性別違和を持っているトランスジェンダー対象 性同一性障害方々と意見交流会	住吉区民センター	5/12	11 人
		8/10	5 人
		11/9	5 人
		12/22	5 人
		2/8	4 人
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	住吉区民センター	開催無し	0 人
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	クレオ大阪中央館	7/20	6 人
		1/19	6 人
性的少数者 (LGBTQ) 意見交流会	梅田総合生涯学習センター	4/14	9 人
		10/13	13 人
学校問題と対策セミナー	住吉区民センター	8/10	10 人
LGBTQ・性別違和個別相談会	Zoom 配信・会場にて	開催無し	0 人
自撮りテクニック術講座	住吉区民センター	6/18	1 人

4. 活動写真



梅田総合生涯学習センター
LGBTQ・性別違和意見交流会



クレオ大阪中央館
LGBTQ・性別違和意見交流会



住吉区民センター
性別違和を持っているトランスジェンダー対象 性同一性障害方々と意見交流会



住吉区民センター
学校問題と対策セミナー



住吉区民センター
トランスジェンダー対象
自撮りテクニック術レッスン

5. 活動課題

今年度から 2 カ月連続で 1 か月空け また 2 カ月連続のイベントスタイルに変更した結果活動が途切れる為 広報が途切れる現状が感じられ 参加者または応募者の目から遠ざかる感覚が感じ 空白の 1 か月が現実となった 空白期間の広報で 参加したいと思わせる広報の仕方が現状手探り状態である バッククラッシュの関係上 運営している団体が増加傾向も終息状態に 広報を積極的に行うと反対派のバッシングの激化が生じる為 どの団体も控えめに目立たない形で活動が見受けられる 当団体は活動の縮小により必然と広報力が小さくなり 伝えたい当事者内外へ届かない現状を肌身で感じている 昨年度は交通アクセスの良い梅田会場のイベント参加者が少ない現状を改善する為 広報に力を入れた結果 10 人超えの日も目立つ様になったが 四天王寺に有るクレオ大阪中央館会場のイベント参加人数が 10 人を下回る結果になってしまった 交通アクセスが良い梅田と四天王寺会場両方 広報力の強化をして行きたい 住吉区民センター会場は昨年度の 2024 年 1 月から性別に違和感が

有るトランスジェンダー当事者対象意見交流会を初開催しましたが 2024 年前半が 10 人越え 8 月以降の後半から 今まで通りの参加人数になってしまった 住吉区民センター会場は交通アクセスが不便と多くの参加者が伝えられる現状である 住吉区民センター会場は他の会場と違う特別感 来て良かったと思えるイベント開催を検討する必要がある

学校問題のセミナーは昨年度に比べ 7 人増加の参加者 10 人となり改善が出来た

性的少数者・性別違和個別相談会はリアル開催の会場費とマンツーマンと言う設定でリーズナブルな価格設定の会場が見当たらず Zoom 配信スタイルで目指したが 仕様が変わり 時間ごとに区分分けが出来ない状態になり頓挫してしまった 個別相談会が 2 年連続開催に至らない現状を何とか改善を検討したい QOL 向上イベントは 資金面の苦慮が有り 自主開催で実現できるイベント 自撮りテクニック術レッスンのみの開催にした 昨年度よりも参加者が集まらない事態に 参加者 1 人でのイベントになった 自撮りテクニック術レッスンイベントは 当事者自身へ自己肯定感の向上になる事が伝わりきれず 性別違和特有である容姿の自信の無さが 参加に至らなかった経緯が十分にあり 周知や広報の仕方を検討する必要がある 当事者自身へ自己肯定感の向上になる事が伝わりきれず 性別違和特有である容姿の自信の無さが 参加に至らなかった経緯が十分にあり 周知や広報の仕方を検討する必要がある

6. 次年度の取組

次年度も 昨年度と同様に 助成金受給なしで 各団体（教育関係機関、福祉団体、行政、医療）などから講義依頼を頂き 講師料をボランティア活動資金に充当継続し 依頼団体を増やし 今以上に周知を徹底して行きたいが 昨今の 強いバッククラッシュの影響か イベント開催を控えている各所団体が肌身で感じる 広報を SNS などのインターネット上で行うと 性的少数者であるトランスジェンダーのイベントバッシングや 登壇者や主催協力者に対し 莫大な批判的なコメントやメールなどが送られ運営に影響を被る 学校なら児童生徒 企業団体なら職員や社員などの勉強や業務に支障をきたす恐れもある為 今年度の依頼はほぼないと見越している 今年度も 参加者に支援寄付金を募り協力を得て 活動継続を周知し 次年度も更に参加者の協力が無いと活動継続が困難になる事を イベント開催前と開催後にもお願いをする 但し 強いトランスバッシングの為 恐怖と不安で本来なら会場参加を希望したいと思っても 参加控えがあるのではないかと想定される その為参加者への支援寄付金が集まら無いと想定されるが バッククラッシュがネット上で生じてても リアル会場では安心して参加出来る事を周知し支援寄付金を募っていく 次年度も同様資金源に見合った活動を検討するが 現状は 代表がイベント活動運営の要になっている 身体の不調と昨年 10 月に腰椎間板ヘルニアが発症し 今後継続的な活動が困難となり 今年（度）で終了の決断をした 但し 収支による資金面を見ながら 単発的なイベントのみの活動を再来年度から行う事を予定している 継続活動が次年度で終了と言う事も有り 夏の納涼イベントと 冬のクリスマスイベント復活開催を実施検討して行く 再来年度は単発開催になるが 性的少数者方々の居場所 特に性別違和を持っているトランスジェンダー対象向け意見交流会を積極的に行う SNS では言えない悩みや辛さは勿論の事 各施設利用においての当事者内外の意見を伺い 最適なヒントを得る情報共有の場 当事者が本来有るべき性別として自己表現が出来る場所として 活動原点を常に立ち返り アットホームな空間を再構築す

る 活動初期に求めてきたものの拘りを持ちつつ 時代の変化に即した活動スタイルを更新し 次年度も同様に 性的少数者だけではなく 男女区別によるスペースによって弾かれた多様な家族や世帯 身障者世帯など受け皿の団体としても遂行していく

7. 活動の達成実現に向けての総括

昨今 毎年毎に性的少数者であるトランスジェンダー属性のバッククラッシュが非常に増しており 更なる持久戦になっている コロナ感染拡大以前は性的少数者トランスジェンダーも含めて当時よりも生きやすい社会 2025年においては 日常生活上に皆さんと同じように認知され 生活し生きやすい状態になっていると想定していましたが 残念ながら 想定外所か 当団体が設立した 2015年よりも 認知はされましたが その反面 団体設立当時以上に生きづらくなっている コロナ感染拡大による自粛によって 今までSNSを利用していない方々が気軽に利用するようになった 性的少数者である性別違和当事者は 真剣に悩み苦しんでいる情報も入って身近に感じてもらえる利点と同時に それ以上 性犯罪者のセンシティブ情報が目に入り衝撃を受ける方が一部居ている ネット上で正しい情報を見極め分別が出来れば良いのだが 海外の情報を悪意的利用し事実を湾曲したデマ情報を流し トランスジェンダーである性別違和当事者が あたかも性犯罪者のように印象操作した物を何も知らない方々が信じ込み 不安や恐怖を煽る傾向がSNS上で非常に高くなっている 普段日常的に生活している性別違和当事者は 一般の方々に不快や不安にならないように見えない形で十分に気を遣い生活し 皆さんと同じ環境の下で迷惑を掛けずに生活をしている その現状を可視化し 性犯罪者は一部であり 一般男性女性トランスジェンダーなど全ての属性に一部居ている事と 嘘やデマを信じ込んでいる方々へ 現実起こっている正しい情報を 自分事に置き換え想像し発信していく SNSなどのネットでの発信ではなく 日常生活上リアルで関わっている方々を通じ面と向かって 浸透させて行く必要がある リアルな場所で面と向かい目と耳を使って 実際に生きている姿をコミュニケーションによって伝える事を継続し続け 1人でも多く正しい事を知る機会を提供する 現代社会では性的少数者以外にも多様な生き方や生活様式がある 男女区別する事で生活が困難な異性のお子さんがいていらしやる一人親世帯 身障者の異性介護を要する世帯など 従来の男女別で分けられているトイレ温泉脱衣更衣などとは別に 性区別がないスペースの設置や増設確保など 性別違和当事者はもちろんの事 生活スタイルの多様性に即し 社会的マイノリティが住みよい社会へ目指し どんな人であれ生きやすい社会 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを早急に推し進める事が必要である